

内閣府
特命担当大臣表彰
奨励賞

福岡市推薦

大日本印刷株式会社

(東京都新宿区)

【概要】

だいにつぼん

➢ 大日本印刷株式会社は、高齢者、障害者、妊婦や子供連れなどの「手助けを求める人」と「手助けできる人」をマッチングする機能を中心に、手助け行動を促進・可視化するソーシャルアクションサービス「May ii」(メイアイ)を提供している。同アプリは、“手助けしたい気持ちはあるけど躊躇してしまう”という誰もが持っている「心のバリア」を取り除き、気軽に“May I help you?”を言える日本人を増加させるために開発されたものである。同アプリを利用することで、手助けを求めることも手助けすることも気軽にできるだけでなく、手助けした人の多くが手助けのハードルが下がり、周囲の困っている人や街のバリアに気づくようになるなど、意識・行動の変容にもつながっている。

<登録・利用状況 2020年10月2日時点>

30,050件ダウンロード

8,537人登録

マッチング機能利用エリアのみ

3万2214人
サポート待機

2,445件
サポート依頼

946件 = 約38%
手助けマッチング

<アプリを通じた効果>

お出かけの
ハードルが下がった
56%



手助けの
ハードルが下がった
81%



周囲の“困っている人・街のバリア”
に気づくようになった
67%



アプリ「May ii」の登録・利用状況とその効果

【功績・功労】

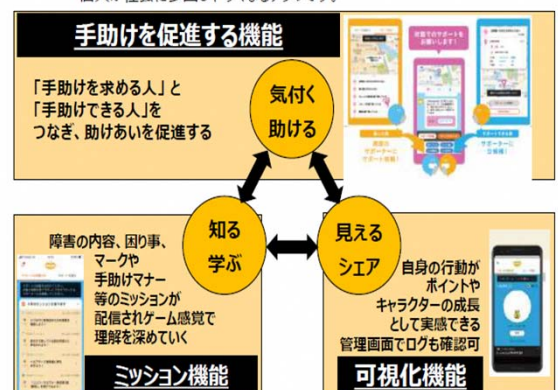
➢ 気軽に助け合いを実践

同アプリを通じて「手助けを求める人」と「手助けできる人」をGPSでの位置情報共有によりマッチングさせることで、気軽に助け合いを実践できる。また、自らの貢献行動が数値化されるなどの「可視化機能」により実感できる。



スマホがつなく、助けあいアプリ

ミッション機能で困りごとや手助けを学び
対面サポート機能で様々な人とふれあい
自らの行動をポイントやキャラクターの成長で実感する
個人が社会に参画しやすくなるアプリです。



アプリ「May ii」の概要

➤ 意識・行動の変容

アプリ利用者へのアンケートでは、手助けに関わる意識・行動の前向きな変容が確認されている。

例えば、アプリを通して実際に手助けをしたサポーターのうち、81%が「手助けのハードルが下がった」と回答し、67%がアプリを利用しなくても「日頃から周囲に配慮の目を向けるようになった」と回答するなど、意識変容につながっている。

一方、手助けを求める側(ベビーカー利用者や障害者などの移動困難者)からは、アプリによって実際に手助けを得られるだけでなく、自身自身の周囲にいるサポーターの数が分かり、“心理的な安心材料”となり、56%から「外出のハードルが下がった」との回答があった。また、手助けを通してコミュニケーションが生まれ、地域交流が自然と生まれることが魅力との回答も得ている。

■移動困難者(国内観光客、ベビーカー利用者、障がい者など)(n=25)のうち
56%の移動困難者が、アプリを通して、外出のハードルが下がったと回答。
■手助けを実際に行ったサポーター (n=250)のうち
81%の人が、アプリを通して手助けのハードルが下がったと回答。
67%の人が、アプリを利用しなくても日頃から周囲に配慮の目を向けるようになったと回答。

■移動困難者(国内観光客、ベビーカー利用者、障がい者など)(n=25)のうち
56%の移動困難者が、アプリを通して、外出のハードルが下がったと回答。
■手助けを実際に行ったサポーター (n=250)のうち
81%の人が、アプリを通して手助けのハードルが下がったと回答。
67%の人が、アプリを利用しなくても日頃から周囲に配慮の目を向けるようになったと回答。

アプリ「May ii」利用者の声

➤ 障害者の雇用促進

同社は、障害を持つ人々の活躍の場を広げ、多様な人材の雇用を一層促進することを目的として、2019年に障害者雇用に特化した100%子会社を設立し、同年、障害者雇用の促進等に関する法律に基づく「特例子会社」として厚生労働大臣の認定を取得した(2020年12月現在、従業員57名:うち障害者37名)。